

# 関町教会の皆さんへの手紙

2020年3月1日 No.670

バルトロメオ稲川保明神父

十 キリストにおける兄弟姉妹の皆さんへ

「四旬節が始まりました」

今日は3月1日、そして四旬節の第一主日です。4月12日に今年の復活祭を迎えるための準備の日々が始まります。四旬節の始まりは2月26日の灰の水曜日ですが、その最初の主日が3月の最初の日となっていることで気持ちを切り替え、四旬節という典礼の季節を充実して過ごしてゆきたいという気持ちになりました。

四旬節という季節が40日という期間を示していることはよく知られていることと思いますが、聖書の中で40という数字はノアの洪水の40日40夜、イスラエルの先祖たちの荒野の旅が40年続いたこと、エリヤが迫害の手を逃れて荒野を40日さまよったこと、新約聖書でも洗礼を受けたイエス様が荒野で40日を過ごし、誘惑を退けたことなど、聖書的な数字で、いずれも試練と同時に神様との親しい時間を過ごすことが暗示されています。四旬節ということばを眺めてみると四十旬節という三つの漢字が組み合わされています。旬という感じはその月の上旬、中旬、下旬ということばでわかるように10日間という時間を表しています。旬という字に竹冠をつけると「筍」という植物の名前となり、筍が10日ほどで親竹と同じくらいに生長する様子を見て、「筍」という字が生まれたのかもしれない。また旬は「しゅん」とも読み、旬の魚や野菜というように、その作物や花の季節の最も盛りの時期を言います。つまり、わたしたちがこれから過ごす四旬節も自分の弱さや至らなさを顧みる回心の季節であります。それは暗い面持ちで過ごすべき時ではなく、神様と親密に真剣に向き合う大切な信仰の時間として過ごすべきだと思ふのです。

今日、3月1日はイエズス会司祭 小暮康久神父様による黙想講話が行われます。そのテーマは「宣教する教会—イエスと共に、イエスのミッションを生きる喜びに満たされて」というものです。このテーマ、タイトルは山上の垂訓のイエス様のことばを思い出させるものではないでしょうか。「断食するときには、あなたがたは偽善者のように沈んだ顔つきをしてはならない。偽善者は、断食しているのを人に見てもらおうと、顔を見苦しくする。はっきり言っておく。彼らは既に報いを受けている。あなたは、断食するとき、頭に油をつけ、顔を洗いなさい。それは、あなたの断食が人に気づかれず、隠れたところにおられるあなたの父に見ていただくためである。そうすれば、隠れたことを見ておられるあなたの父が報いてくださる」(マタイ6:16~18) 宣教というテーマは四旬節ということと一見関係がないようにも思えるテーマですが、「イエスと共に生きる喜び」が根底にあって、わたしたちの信仰は成り立ちます。そしてイエス様のミッションを教会全体が受け継いでいるのです。復活されたイエス様の見える姿が教会共同体であるのです。今年も、明るく、まじめに、喜びをもって、この神様と人々に出会うためにこの四旬節を過ごしてゆきましょう。